

たばこ火災を防ぐポイント

- 寝たばこは絶対にやめましょう。
- 飲酒しながら喫煙し、うたた寝をしないようにしましょう。
- 吸殻を灰皿やごみ箱にためないようにしましょう。
- 吸殻を捨てるときは、必ず水をかけましょう。
- くわえたばこをしながら作業等をしないようにしましょう。



たばこ火災から命を守るために

◆ 防災品を使いましょう。

防災品は、たばこの火が接しても燃え広がりにくく、一酸化炭素の発生を抑制できます。

◆ 住宅用火災警報器を設置しましょう。

設置場所は、**全ての居室・台所・階段**です。

鳴動に気付き被害を最小限に抑えた事例が多くあります。

また、無炎燃焼が継続して一酸化炭素濃度が高まると、一酸化炭素中毒になり死に至る危険性があります。住宅用火災警報器の中には、一酸化炭素警報機能付きのものがああります。



(防災製品ラベル)

防災のシーツや布団カバーを使ってみましょう！

問合せ先 東京消防庁〇〇消防署〇〇課 電話番号〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

平成29年10月発行

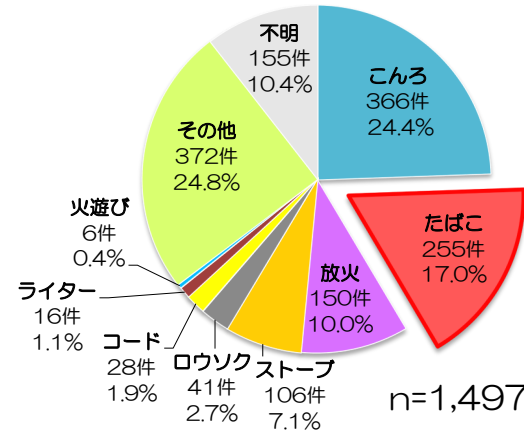
STOP! 住宅防火シリーズ②

火災から命を守ろう

STOP! たばこ火災

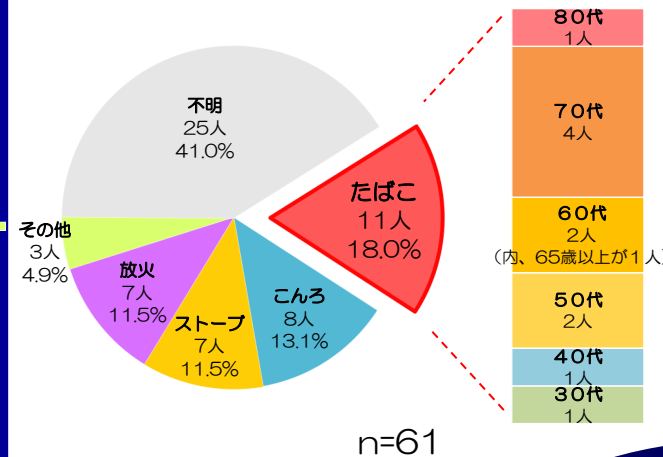
東京消防庁

たばこ火災の実態



出火原因別件数 (平成28年住宅火災)

出火原因「たばこ」による住宅火災は、「こんろ」に次いで2番目に多く発生しています。



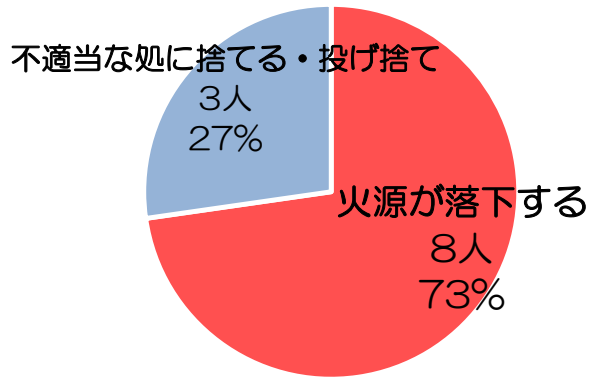
出火原因別死者数 (平成28年住宅火災)

死者が発生した住宅火災の出火原因で最も多いのは、「たばこ」による火災です。

また、「たばこ」による住宅火災の死者の**半数以上は高齢者**です。

▶ たばこによる火災の状況や事例は、次ページをご覧ください。

火災の発生状況



n=11

たばこ火災発生状況別死者数
(平成28年住宅火災)

たばこによる住宅火災の死者11人中8人が寝たばこ等による、**たばこの火種が落下**することで発生した火災で亡くなっています。

あなたにも起こりうるたばこ火災

<死者が発生した「たばこ」による住宅火災の事例①>

住宅の居住者（男性・50代）は**飲酒し、寝たばこをして、火種が布団に落下したことに気付かずに就寝**してしまいました。布団が無炎燃焼を継続し、近くの可燃物に着火したため火災となった。外出から帰宅した家族が住宅用火災警報器の鳴動音で火災を発見し、119番通報を行った。

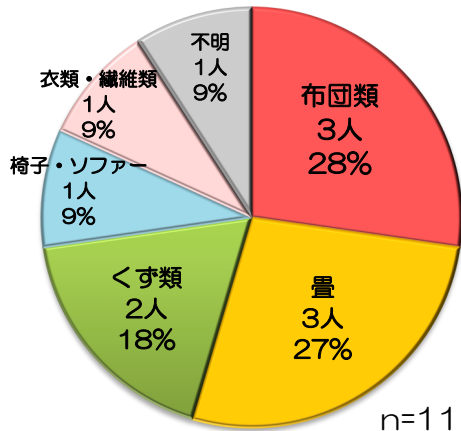


<死者が発生した「たばこ」による住宅火災の事例②>

共同住宅の居住者（女性・70代）は、**火種が残った吸殻をごみ箱の中に捨てたため、時間の経過とともにごみくずに火種が着火、無炎燃焼を継続し火災**となった。

何が燃えて火災に？

着火物別の死者数では、**布団類・座布団**や**畳**、**くす類**の順で多くなっています。



n=11

たばこ火災の着火物別死者数
(平成28年住宅火災)



たばこ火災の特徴



たばこによる火災は、すぐに燃え上がりずしばらく**無炎燃焼**（炎を出さずに燃え広がる）を続け、出火します。また、焼損面積の少ない火災でも、**一酸化炭素中毒**で死者が発生しています。



就寝前や**外出前**のたばこ、**吸殻の捨て方**に注意しましょう！

火災防止のポイントは裏面をチェック！